

まんのう町教育委員会だより

爽そうふう風

子どもの健やかな成長を願って

Vol. 32

令和4年【2022】

8月1日 発行



特集 校歌のひみつ

Contents

P.6~7 園・学校ウォッチング
高篠小学校・高篠こども園

P.8 芸術士がこども園にやってきた
P.9 シリーズ「声」

P.10 ホットニュース
P.11 関係機関から

校歌は日本独特の文化！

日本の学校で、自校の校歌を定めていないところはありません。

ところが欧米では、学生や生徒が自発的に定めた愛唱歌的な校歌をもつ学校は多数あるものの、学校が定めた校歌というものはあまり見受けられないそうです。

校歌は、
学校が必要を感じて作ったもの

文部省(現在の文部科学省)は、1872(明治5)年の学制公布以来現在に至るまで、学校に校歌の制定を義務づけたり奨励したりしたことは一度もありませんでした。

校歌は、学校自らがそれを必要とし、制定した
のです。

学校固有の校歌が作られるようになったのは、いつ頃から？

大正期に入ると、校歌の中に学校の周辺の環境などをうたい、独自性を持たせるようになりました。

1930（昭和5）年頃を境に全国的に学校固有の校歌が普及しました。郷土教育運動が起こり、校歌は児童生徒だけでなく、その地域に住む人々によっても歌われる歌になっていったのです。

校歌は、いつ頃生まれた？

最も早く校歌を制定した学校には諸説あり、特定することは困難ですが、少なくとも1893（明治26）年には、校歌を作って歌う学校が存在していたようです。



はじめは 学校固有のものじゃなかった

今では1学校に1校歌が当たり前ですが、明治の記録を見ると、そうではなかったことが分かります。

例えば

- 長崎県の5つの尋常小学校では、ほぼ同じの歌詞の校歌が歌われていました。これは長崎県だけでなく、全国で見られたことです。
- 文部省が定めた**唱歌の一つ『金剛石』**を校歌と定めて歌っていた学校が何校もありました。
- 全国のどの学校でも歌える「**校歌**」という**題名の唱歌**を掲載した本が出版されました。

- 文部省が定めた**唱歌の一つ『金剛石』**を校歌と定めて歌っていた学校が何校もありました。
- 全国のどの学校でも歌える「**校歌**」という**題名の唱歌**を掲載した本が出版されました。

- 全国のどの学校でも歌える「校歌」という
題名の唱歌を掲載した本が出版されまし
た。

学校固有の校歌をもつ学校もありましたが、歌詞に地名や固有名詞、歴史的な内容などは含まれていませんでした。



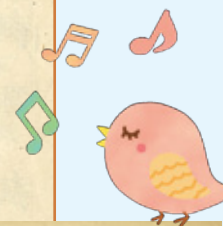
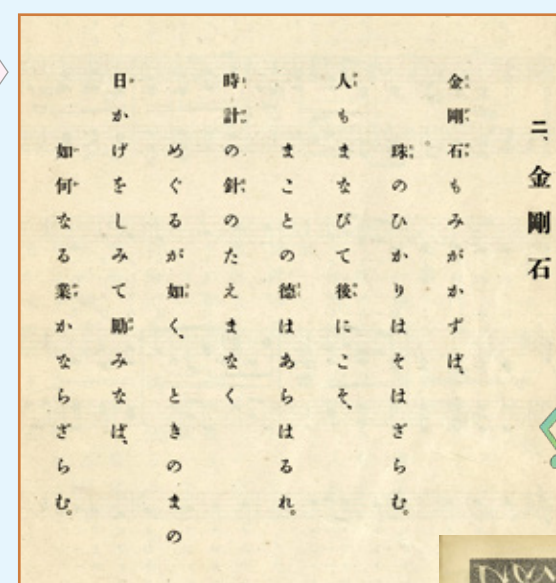
校歌のひみつ

「学校のあるところ、必ず校歌あり」と言われます。

子どもたちは、儀式などで声をそろえて校歌を歌うことで、同じ学校で学ぶ者としての連帯感を高め、自分の学校を愛し誇りに思う心を育てていきます。また、学校を去り、時が経ち、ふるさとから遠く離れても、校歌を歌うと、それぞれが心の中に懐かしい「ふるさとの原風景」を描くことができるのです。

そんな「校歌」について、そのひみつをまとめてみました。

四條小学校校庭に咲くかりんの花



文部省が編纂した「尋常小学唱歌」の中におさめられている「金剛石」という曲
これをそのまま校歌にした学校もあった
(出典：尋常小学唱歌第五学年用)

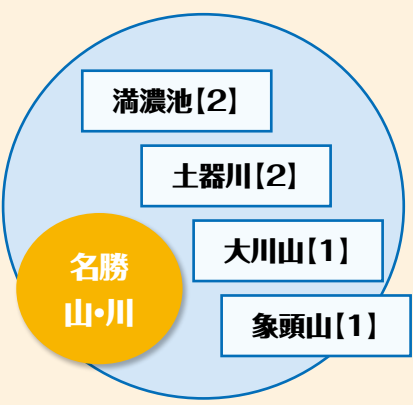
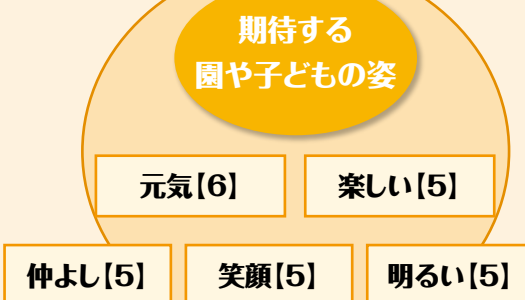
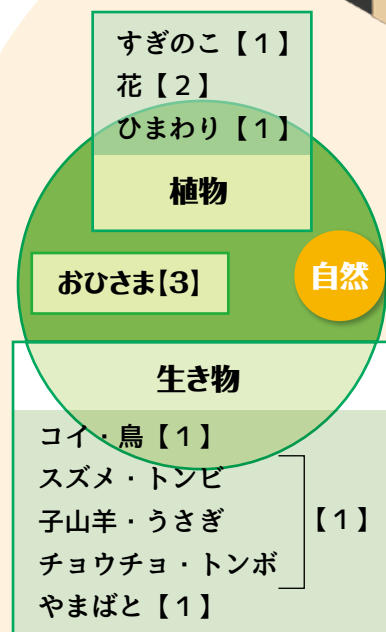
学校必用唱歌集に掲載された「校歌」という名前の楽曲
全国どここの学校でも歌えるように作成されている
(出典：国立国会図書館 デジタルコレクション)



すべてのこども園で、
園の名前が入っていたよ

園歌に使われている言葉を調べてみました！

※【 】内の数字は、その言葉が入っているこども園の数



**こども園にも、それぞれ
独自の園歌があります**



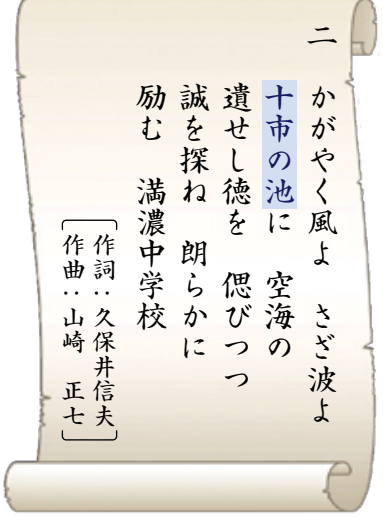
生涯学習課文化財室
加納 裕之係長に聞きました

「十市の池」とは、満濃池の別名です。
十市は「とおち」とも読めます。「とお（十）」「ち（千）」「つまり、十（とお）が千（ち）で「万」。「十市の池」は万の池 ↓ 満濃池！というわけです。

このように呼ばれるようになった背景には、平安時代の歌人藤原為家が大和（今の奈良）にある「十市の池」を詠んだ次の歌があります。

今ははやとをちの池の みくりなは※
来る夜もしらぬ 人に戀ひつ、

※みくりなわ（三稜草）
水草のミクリが水に漂いよれて、縄のように見えるもの。
（まんのう町教育委員会発行『満濃池名勝調査報告書』より）



2番に、「十市の池」が
歌われています

満濃中学校の校歌には、まんのう町の豊かな自然や、この町でしか見られない景色がたくさん詰まっています。

中でも、「十市の池」が満濃池のことだと知り、空海が残した恵みを、まんのう町民全員で守っていきたいという思いを、校歌として歌い継いでいるのだと感じました。

私たちも、歌い継がれてきたこの校歌を大切に、校内だけでなく、まんのう町の思いをひきついでいきたいです。



満濃中学校2年
長原 莉子

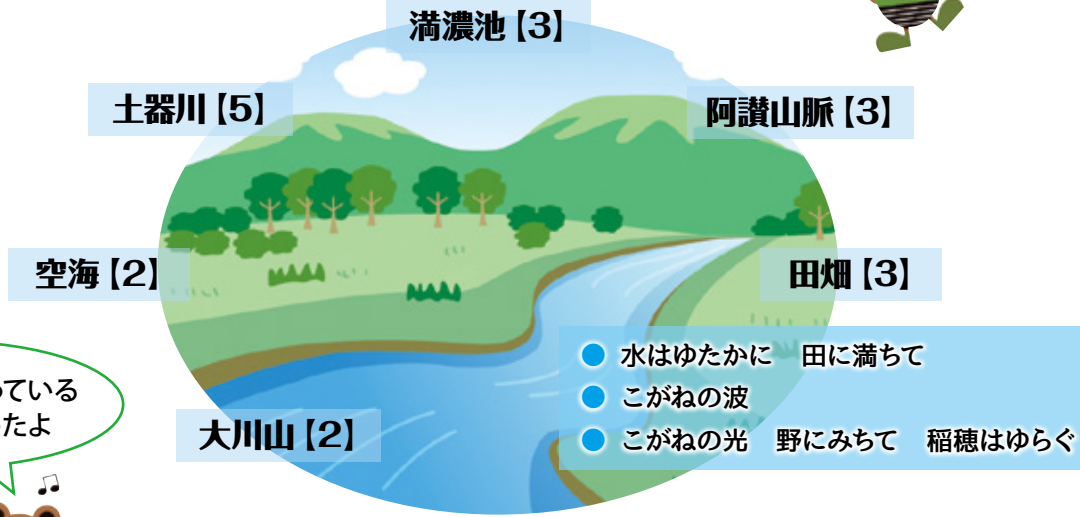
まんのう町内 小中学校の校歌を調べる

大正期以降、校歌は、地名や山川の固有名词、地域の歴史などが歌詞にうたわれ、その学校独自のものになりました。

まんのう町にある7つの小中学校には、どのような固有名词や自然がうたわれているのでしょうか。

まんのう町ならではの歌詞を探してみました！

※【 】内の数字は、その言葉が入っている学校の数



学校の名前が入っている
校歌は6つだったよ

その学校独自の歌詞を 集めてみました！



高篠小学校では、自分や友だち、家族、地域の方の思いを大切にする気持ちを高めることをめざして、様々な取り組みを行っています。

ボランティア活動

高篠小学校の朝は、ボランティア活動から始まります。登校してきた高学年児童が体育館前にランドセルを置き、玄関前の掃き掃除をしています。高篠小学校には、玄関前にクスノキがあります。このクスノキが、年に2回、春と秋に葉を落とします。大きく育ったクスノキは、この時期、たくさんの葉を落とします。玄関前には、たくさん葉が落ちてくるのです。これを登校してきた児童がほうきを持ってきて掃いたり、袋に集めたりするのです。これは教師がいてもいなくても、毎日行われます。高篠小学校の素晴らしい伝統です。



進んで掃き掃除



「問い返し」で深まる学び

自他の思いを大切にし、認め合う仲間づくり

高篠小学校

「問い返し」を生かした学び合い

本校では学び合いの場で、児童の考えを深めるために「問い返し」を取り入れています。問い返しには、教師から児童への問い返し、児童同士での問い返しがあります。問い返しは、「なぜ」「どうして」から始まり、高学年になるにつれて、「どうしてそう考えたの」「どうしてそう考えたの」などの問い返しへと進化していきます。話し合いの場で問い返しのある学び合いをすることで、相手の考えを深く知り、自分の考えをさらに深めることができるようになります。



動きを映像で見せながら...



力を合わせてつくり上げた表現

運動会

5月21日(土)、春季運動会が開催されました。コロナ禍の中、久しぶりに全校児童が集まって開催することができました。その中で、5・6年生の表現では、6年生のリーダーが自分たちで考えた動きを、5・6年生全員に伝えて練習をしました。



教える児童は、「どうやって伝えようか」「何を考え、映像を見せたり、自分たちが前に出て実際にやってみせたりして、伝え方を工夫していました。聞いている側も、教えてもらったことを素直に練習し、分らないければ何度も質問し、全員の力でつくり上げていきました。

5年生の児童からは、「来年、わたしたちができるかな」「さすがは6年生だ」という声も聞かれました。運動会当日には、1・4年生や保護者に披露して、最後に大きな拍手をもらいました。子どもたちの顔からは満足そうな笑顔があらわれていました。

エントランスのトンネルをくぐると目の前に緑の芝山。そしてその向こうには、地域の方々の田園がフェンス越しに見え、思わず「わ」と声が出そうになる、そんな自然豊かな高篠こども園。天気の良い日には、園庭のあちこちから子どもたちの様々な声が聞こえてきます。笑い声、何かを発見した驚きの声、うれい声、友だちとの楽しいおしゃべり、そして、時には友だちと思いの違いから言い合う声、泣き声——このすべてがこども園での学びの姿であり、毎日の生活の様子です。

守り続けていきたい環境



緑いっぱいの園庭

みんなの顔が見えるつながり

小川では、毎年色々な遊びが生まれます。高篠こども園を巣立って行った子どもたち、そして、今ではお父さんお母さんになった方々も、きっと、この小川で遊んだことは、園での楽しかった思い出として残っているのではないのでしょうか。この素晴らしい環境は園の自慢であり、これからも大切に守り続けていきたいと思っています。

5月、こいのぼりが気持ちよさそうに泳ぐ季節。こども園でもこいのぼりを作りました。5歳児は、3歳児や4歳児と一緒に楽しめるようにと考えました。「何で作ろうか」と聞くと、「段ボール」「布」「ビニール袋」...子どもたちからは色々意見が出ました。それぞれ材料を探し、チームに分かれて作るようになりました。段ボールで作ろうとしたチームは、「本物と同じくらい大きくしよう」とつなげていくうちに、今度は、「こいのぼりに乗りたい！」

という思いが膨らみ、箱の中に大型積み木を入れ、「ここは乗れる」「ここは乗れない」と、みんなが乗っても壊れないように試しながら作りました。ビニール袋で作ったチームは、「これだったら、もも組さんの中に入れてさう」と、トンネルになっていくこいのぼりを作りました。

毎年初夏を迎える6月になると、5歳児が小川の掃除をして、保護者の方々が小川周辺の草刈りをしてくださいます。小川がきれいになり水が流れだすと、みんなワクワク。水しぶきをあげて走り、「つめたい」「きもちいい」と水の感触を思いっきり味わいます。水の上に葉っぱを浮かべたり自分たちで作った船を浮かべたりして、浮くものと沈むものがあること、水の流れるや風で動くことなどに気づき、色々試す姿があります。



小川がきれいになったよ

豊かな環境を生かして！

高篠こども園



大きなこいのぼりをつくろう



およげ こいのぼり

子どもたちも大人も、みんなの顔が見え、声が聞こえる。だからこそ安心してつながっていく。そんな規模園だからこそのよさを生かし、温かい雰囲気の中で、これからも伸び伸びと育てていきたいと思っています。



ジュースぐださーい

クッキーいかがですか？



第18回 新任教頭として ～立場が変わると見えてくるもの～

4月。町内の学校には、これまで教諭として直接子どもたちの指導に当たっていた立場から、同じ学校で教頭に昇任し、全校生や学校全体のことを管理・指導する立場に変わった先生がいます。立場が変わり、気づくことがあります。そんな先生方の「声」を聞きました。



また、運動会では、児童会や保健委員会の子どもの呼びかけを受けて、感染予防に気をつけながらの観覧、徒歩や自転車での来校など、保護者の方々にたくさんご協力をいただきました。保護者や地域の方が、子どもたちのためにと学校を支えていただけたるありがたさも改めて感じています。

これからの第一に子どもたちの安全を心に留め、子どもとの関わりを大切にしながら日々務めていきたいと思っています。

満濃南小学校 教頭 加地 弘美

子どものために
私の一日は、朝の電話応対から始まります。「体調を崩していた子は大丈夫かな」「けがをした子は登校しているかな」全校生が元気に登校してくれると嬉しくなります。

昨年度までは、満濃南小学校で学級担任として、学級の子とたちと一緒にいるのが当たり前でした。子どもたちと行事を計画・運営したり、楽しい授業にしようとか教材研究に励んだり充実した日々でした。それが教頭になった4月からは生活が一変しました。基本、職員室での仕事。たくさん文書の処理に追われました。「先生」と子どもが呼ぶ声に振り向くと、私ではなく学級担任に視線が向いている。そんな寂しい思いをしたのも事実です。

しかし、教頭という立場だからこそできることもあります。今年度は、1～6年生までほとんどの学級に関わっています。

休み時間に「先生、見て」と手に大事そうに持っているバッタの赤ちゃんを見せてくれる子。学校図書館でアマガエルが蜂を飲み込むと胃袋を洗えることを、一生懸命本を示しながら説明してくれる子。色別草抜きをする前に軍手をつけていると「先生も草抜きするん」と声をかけてくれる子。本当に様々な学年の子と触れ合えることができます。



すばらしい伝統を受け継いで

ご縁があり、本年度も満濃中学校でお世話になることになりました。おかげさまで、満濃中学校勤務18年目を迎えています。少なく見積もっても、私のこれまでの人生において、一番生活している場所は自宅ではなく、満濃中学校のようすです。先日、家族に「満濃中18年目やで」と伝えると、冷たく「引越したら？」とまさかの別居宣言(涙)。

校舎の中庭で、今、流行りのキャンパス生活も、ありかもしれません。

さて、今年度から教頭として学校生活を送っていますが、生徒と直接関わることでできる時間が激減しました。正直、さみしくなりました。一人でも多くの生徒に自分のことを覚えてもらうために、できるだけ話しかけるようにしています。

そんな中で、毎日会えるのが清掃のメンバーです。私はランチルームを担当しており、3年1組、2年1組、1年1組の縦割りチーム15名と、10分間という短い時間を楽しんでいます。清掃開始のチャイムまでに全員がランチルームに来て、班ごとに取っかかりしています。3年生は自分の班の下級生に声をかけたり、清掃の取り組みを振り返ったりしています。先に来た下級生が先輩に掃除道具を手渡す温かい光景も見ました。

ところで、昨年度の香川県学習状況調査生徒質問紙において、「今住んでいる地域の歴史や自然、産業について関心があるか」という質問に、「ある」「どちらかといえばある」と回答した生徒が58.2%と、県平均を11.6ポイントも上回っていました。この結果は、これまでの卒業生や地域のみならず、私たち教職員と共に、地域を大切に地道な努力を積み上げてきた成果であると実感しています。

満濃中学校を支える一員として、このすばらしい伝統をしっかりと受け継ぎ、さらに磨き続けたいと思います。どうぞ、これからも満濃中学校の教育活動にご理解とご協力をお願いいたします。

満濃中学校 教頭 岡原 秀和

芸術士がこども園にやってきた ①

まんのう町では、今年度、町内のこども園に高松市にあるNPO法人アーキペラゴから3名の芸術士が派遣され、子どもたちの感性や探求心、想像力、創造力などを伸ばす取り組みを行っています。

アーキペラゴ

アーキペラゴとは「群島・多島海」を意味する英語で、瀬戸内海とそこに広がる島々を表しています。

主な活動

『学ぶ・交流する』 瀬戸内ツーリズム企画・販促
『創造する』 四国の資源活用事業の支援活動
『記録・発信する』 瀬戸内情報発信サイトの運営
小豆島myオリーブクラブのPR活動
『未来を育てる』 芸術士派遣事業

ルカ・ローマさん

イタリア生まれ 三豊市在住 専門は彫刻

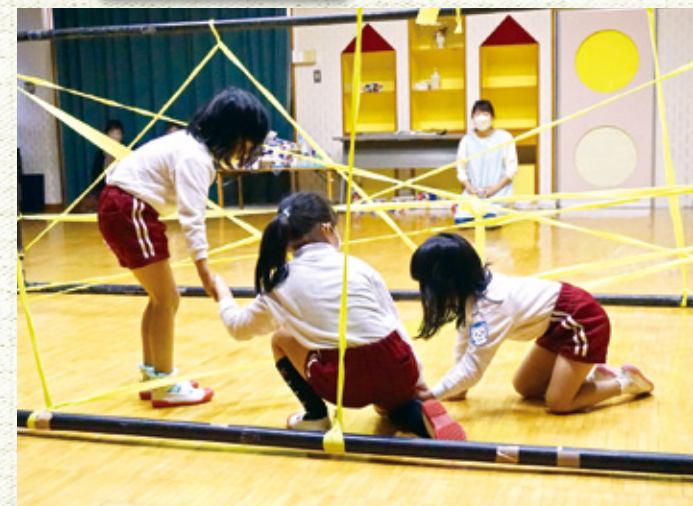
『ロープ迷路』

5月17日 … 長炭こども園



中に生卵が入っています。
気を付けて

おとさないように
さわらないように
ゆっくりすすもう



直方体の枠に張り巡らされた柔らかな布ロープで作った迷路。箱を持ったり、2人で手をつないだりして、ロープに触れないようにゴールを目指します。集中力やバランス感覚、判断力などを働かせながら、取り組んでいました。

芸術士

芸術士とは、アートに通じた人のことです。

役割 子どもたちの感性と想像力を引き出す手助けをする

ミッション 「子どもたちと社会をつなぐ」
「結果ではなく過程を大切に」
「子ども個々の個性を尊重し、自ら考え、工夫し、伝える力をサポートする」

アーキペラゴには、現在24人の芸術士が在籍しています。高松市内外の保育園、幼稚園、こども園で、子どもたちと造形活動や身体表現など様々な表現活動を行っています。

『ハウスづくり』

6月15日 … 琴南こども園



まっすぐに線を引いて、切ります。
5枚使って、ハウスを作りましょう

しっかり
おさえているよ



プラスチックダンボールをテープでつないで、大きなハウスを2つ作りました。協力して線を引いたり、テープで貼ったりして大きなハウスができました。できたハウスに入って子どもたちは大満足でした。ハウスは、これから子どもたちの園生活で活躍しそうです。

人の脳は、受精後約3週間程度で神経管が形成されることから始まるといわれています。そして、受精後17週頃に、脳の細胞（ニューロン）が決まった位置に移動することで、脳の構造が形成されていきます。以前、胎教の一つとしてクラシック音楽を聞かせることが流行りました。科学的な根拠は不明ですが、最近の研究から、胎児の聴覚は機能していることが分かりました。出生後すぐの新生児が母親の声を好むのは、母親の声が胎児に伝わっているからです。

また、胎児には味覚も備わっていることが分かっています。さらに、痛覚についても研究が進み、受胎後6〜7か月程度で痛みを覚える可能性が示されています。これらのことから、**出生時には、すでに脳の基本的構造が形成されている**ことが分かります。外見としての脳の大きさは、誕生時は400g、それが、2歳時には1000gになり、5〜6歳になると大人の90%にもなるそうです。

こうして見ると、小学生になる前に、脳の発達完了するように見えますが、**脳の内部では大人になるまで、そして、なつてからも、絶えず変化が起きている**のです。

その3 「脳の不思議」

脳の発達

早期支援教育センター

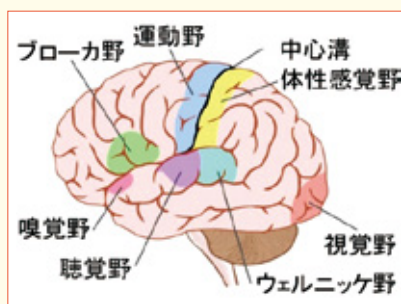
「たむ」通信



脳は、**脳機能**（**脳機能**）を見てみると、下図のように、場所（**領域**）によって働きが異なっていることが分かっています。これを「**脳機能は局在する**（限られた場所に存在すること）」と言います。

しかし、脳機能についても一つ重要なことがあります。それは、**経験によって領域の大きさや働きが変化**するということです。これを「**脳機能の可塑性**」といいます。

例えば、視覚障害の人が点字を読んでいるときには、触覚を司る領域だけでなく目からの情報を処理する領域にも活動が見られることがわかってきました。これは、指から得られた感覚を、視覚を司る領域が処理するように変化したことを示しています。



シナプスと刈り込み

シナプスとは、ニューロン同士を繋いでいる部位のことです。このシナプスは、出生後すぐから、ものすごい勢いで増加しますが、その後、減少していきます。多数あったシナプスが、必要なものだけに刈り込まれていくからです。この**刈り込み**は、作物の「間引き」と同様に、生命力が重要な物だけを残す働きをします。

刈り込みに重要な役割を果たすのが、「経験」と「自発活動」だと考えられています。また、刈り込みのタイミングは、脳の領域によって異なっています。

すなわち、目や耳からの情報が届く領域は早く刈り込まれます。それに対して、前頭前野のように思考に関係し、情報が届くのに時間がかかる複雑な領域は刈り込みが遅く、青年期まで続くようです。

また、バイオリニストは、指先の感覚に対応する領域の大きさが、通常よりも大きいそうです。

このように脳の機能は、固定されたものではなく「環境」や「経験」によって変わっていく可能性があり、成長過程にある子ども時代の「自発活動」によっても、一層の活性化が期待できるのではないかと考えられます。

ですから、私たち大人はよい環境を提供し、子ども自身の自主的な活動を尊重し、見守っていくことを心がけたいものです。



※写真と本文は無関係です

With コロナの

運動会

小学校・こども園・・・5月21日・22日
中学校・・・・・・・5月28日
※ 仲南こども園は秋に実施予定



力いっぱい

躍動



心を一つに



午前中実施、参観人数の制限などの感染症予防対策をしながら、各校・園ごとに競技や演技を工夫して、子どもたちの熱い思いが伝えられました。



あはは… 顔も塗られちゃった!

(アーキペラゴの芸術士による活動:P. 8 参照)

高篠こども園

編集後記

東日本大震災という未曾有の災害で被災した子どもたちが、校歌に力をもらって頑張り抜いたというエピソードは、校歌に秘められた底知れない力を教えてくれます。下は、宮城県釜石小学校の校歌です。

釜石小学校校歌

作詞 井上ひさし
作曲 宇野誠一郎

いきいき生きる まっすぐ生きる
ひとりで立つて まっすぐ生きる
困ったときは 目をあげて
星をみあげて まっすぐ生きる
息あるうちは いきいき生きる
はつきり話す はつきり話す
びくびくせずには はつきり話す
困ったときは あわてずに
人間について よく考える
考えたなら はつきり話す
しっかりとつむ しっかりとつむ
まことの知恵を しっかりとつむ
困ったときは 手を出して
ともだちの手を しっかりとつむ
手と手をつないで しっかりと生きる

作詞・作曲は、あの人形劇『ひょっこりひょうたん島』のテーマソングを作ったコンビ。作られたのは大震災より8年ほど前のようですが、校名も地域の自然や歴史も入っていない、校歌らしからぬ歌詞に、当時は賛否両論あったといえます。

しかし、大震災で恐怖のどん底にいた子どもたちを支え勇気づけたのは、ほかならぬ、この校歌だったのです。津波が押し寄せる中、手を取り合って懸命に逃げた子どもたち。夜、星を見ながら朝を待つその胸には、「生きぬくために大切なこと」を伝えようとするこの歌が鳴り響

いていたに違いありません。

体育館に掲げられていたこの校歌は、その後、そこで避難生活を送る人たちみんなの支えとなり、校長先生は、避難所が閉鎖されるまで1日も休むことなく、この校歌を流し続けたということです。

同様のエピソードは、茨城大学教育学部附属小学校にもありました。東北のような津波の被害はなかったものの、建物の損壊という点では最大級の被害を受けた学校だといえます。

避難した運動場で、誰かが歌い始めたのは校歌でした。「水戸の城あと 風清く…」地震への恐怖と寒さに震えながらも、広がっていく歌声。校歌以外にも「こぎつね」「かたつむり」「ふるさと」などの歌が、暗くなるまで寒空の校庭に響きました。命の保証もない厳しい状況で、肩を寄せ合い、不安と寂しさを紛らわすかのように歌い続けた子どもたち。その口からあふれ出たのは、普段慣れ親しんだ流行の歌ではなく、校歌や唱歌だったということです。

学校で学ぶ子どもたちの帰属意識を高め、心と心をつなぐといわれる校歌。東日本大震災で被災し、統合や閉校を余儀なくされた学校の校歌を、収録して後世に残そうとする取り組みが広がっているといえます。人は、学校を離れてからも、心がいつでも帰ることのできる懐かしく温かい場所として、校歌を失くさずになりたいと願っているのでしょう。

(Y. T)

表紙絵: 松下 貴汰 (満濃中学校美術部2年)

次号予告
(10月1日発行)

特集
国・学校ウォッチング

未来につながる「深い学び」

満濃南小学校・長炭こども園